

システム・インテグレーション基盤技術開発計画(Ⅲ)

(5) デザイン・レビュー支援ツール

7K-2

中井 兼光 神保 寛明 中原 邦久

東芝情報システム株式会社

1. はじめに

デザイン・レビュー支援ツールは、システム・インテグレーション・サービスにおける、プロジェクト管理の一端を担っている。ソフトウェア開発では、デザインレビュー(以下DRと略す)により各工程で、作成される設計書(成果物)の審査と品質の確認を行っている。このDR作業と流れ(計画、DRチェックリスト作成、DR実施、結果評価)を支援するために本ツールを開発している。本ツールの利用によりDRの簡素化、作業効率と品質の向上をねらっている。

2. 目的

本ツールによりプロジェクトチームが、手軽に効果的なDRを行えるように支援する。

- (1) 標準的なDR用チェックリストにより、チェックリストの作成を支援する。
- (2) DRチェックリストに沿ってDRを実行することにより、DRが効果的に行える。
- (3) DRの実施結果を集計し、成果物の完成度の評価を定量的に行う。

3. DRの課題及び問題点

ソフトウェア開発では各工程で作成される設計書を工程の区切り毎に、DRを行うのが標準的である。そのDR作業上で抱えている種々の問題を、以下に述べる。

- (1) 担当者の経験不足のため、適切で有効なチェック項目を設定したDR用チェックリストが作成できない。実施手順は理解しても、その通り行っていない。
- (2) DRは行われても、チェック基準が曖昧で、実施結果の真偽の判断ができない。
- (3) DRの重要性は認識されているがテスト、コストダウン等が優先されてDRを十分に行っていない。(DRの時間をとれない)

4. DR実施の流れとツール化の対象

標準的なDRの実施手順と本ツールの対応を図-1により説明する。

(1) DR計画

DR計画機能により、リーダーが標準的な工程計画情報をベースにDR計画を立てる。

(2) 事前準備

チェックリスト作成機能により、リーダーが過去及び標準的なチェックリストを基にチェックリストを作成する。また設計標準、要求仕様を予めテキスト化しておき参照する。次にDR実施機能により、成果物をチェックリストに沿って、サブリーダーまたは担当者で内部DRを行い、問題点、コメントを事前に洗い出す。

System Integration Fundamental Technology: A Supporting Tool for Design Review

Kanemitsu Nakai, Hiroaki Zinbo, Kunihisa Nakahara

Toshiba Information Systems[Japan]

このシステムは、(株)情報技術コンソーシアム(旧 協同システム開発(株))を通して、情報処理振興事業協会(IPA)の委託のもとに開発されているものである。

(3) DR実施

DRメンバが参加した全体DRを開催し、DR実施機能により、議長が予め洗い出した問題点項目を重点的にチェックする。

(4) 後処理

DR結果評価機能により、リーダーが問題事項、検討事項等をまとめて印刷し、設計書の修正依頼を行う。その修正度合いに応じて再DRを行う。またDR実施結果（チェックリストの重要度と合否の割合）により評価を行う。

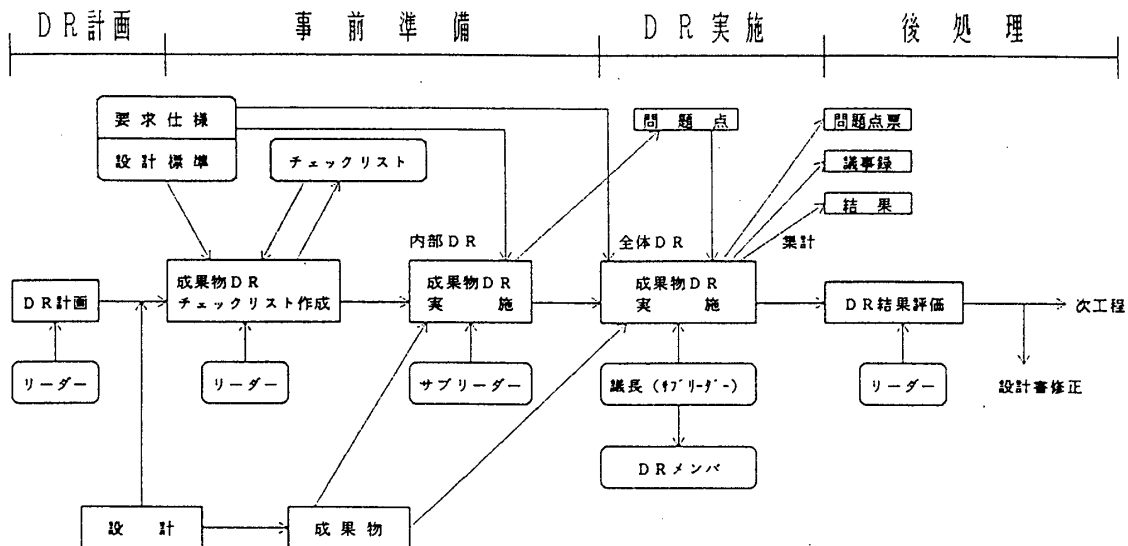


図-1 DR実施の手順と本ツールの対応

5. 効果・特徴

ツール化によってDR作業の以下の点について、効率化を図ることができる。

- (1) 主文、副文の階層化したチェックリストにより、設計書を細部までチェックできる。
- (2) チェックリストをデータベースに蓄積することにより、ノウハウの再利用と共有化（標準化）が図れ、チェックリスト作成の負荷を軽減する。
- (3) DR実施結果を集計して客観的な評価が行える。
- (4) 再レビュー時、問題点の項目のみをチェックすることにより、効果的なDRが行える。
- (5) 本ツールの実施手順や機能を使用することにより、開発現場へのDRの普及が深まる。

6. おわりに

本ツールは、DR実施結果（チェックリストの重要度と合否の割合）により、成果物を評価しているが、どこまでの割合（%）を合格とするかは、実際にツールを使用して調整していく必要がある。また今回はプロジェクトの工程における成果物を対象としたが、一般的なドキュメントのチェックに応用することも可能である。

資料及び参考文献名

- 「ソフトウェア・プロジェクト管理」 著者 菅野文友 日科技連出版社
「やわらかなソフトウェアに関する調査研究」 発行 情報サービス産業協会